

農家民宿体験記

平成22年8月 晴佐久

まえがき

本稿では、7月24・25日に、綾部市郊外の山奥にある農家民宿「素のまんま」に宿泊して感じたことを中心に、農家民宿としての成功要因や背景にある行政やNPOなどの支援のあり方について知り得た限りで情報提供します。

農家民宿『素のまんま』

農家民宿「素（そ）のまんま」は、京都府綾部市街地から約20kmの山間部にあり、道路も非常に狭く携帯電話も不通で観光資源も何もないところにあります。けれど、ここでは、春は山菜採り、夏はホテル鑑賞や川遊び、秋は野菜の収穫、冬はこんにやく作り、そして年間を通じて藤つるの籠編みや蕎麦ぼうろ作りなどを楽しむことができます。また、昔ながらの古民家で、夜は五右衛門風呂を体験することもできます。平成14年から農家民宿を始め今年で8年目を迎え、これまで延べ300人以上の人が全国各地から訪問しています。

そもそも「素のまんま」を知ったきっかけは、農林水産省が選定した「農林漁家民宿おかあさん100選」（近畿地方からは4軒登録されている）に選ばれたことです。これまで農家民宿というと観光地にある伝統的家屋やスキー場での民宿などをイメージしていましたが、この農家民宿100選では農林漁家の女性個人の努力により長年経営されている事例として紹介されています。そこで、農家民宿の魅力を確かめるためまずは行動ということで宿泊することにしました。

宿泊して農家民宿の魅力がどこにあるのか、はっきりと分かりました。それは、おかあさんの人柄に尽きます。到着時に満面の笑みで迎えていただき、子供への接し方も相手の目線で対応する姿勢をはっきりと感じられました。一泊という短い時間にも関わらず、子供が非常になつたことがおかあさんの人柄の良さを示す何よりの証明であると思います。このおかあさんにまた会いたい応援したいと思い、毎年訪れているリピーターもいるようです。旅行業界では全体のパイが縮小する中、ホスピタリティ（おもてなし）を重視し如何にお客の満足度を上げリピーターを確保するかが求められていると言われていています。このおかあさんは、これまでの自然と共に生活する厳しい実体験を通じて、人としてあらゆる物事に感謝するという慣習を身に付けられており、誰に教えられるわけでもなく自然とおもてなしの心を持たれています。

もう1点、農家民宿を続けられた理由があるそうです。それは、周囲の方の協力です。営業許可の取得のお手伝いなどを行った京都府や綾部市などの行政、農家民宿受け入れ窓口を代行しているNPO、そして水源の里に新規就農した地域の若者たちの協力など、多方面からの支援があって、おかあさん1人でも続けてこれたのだと思います。

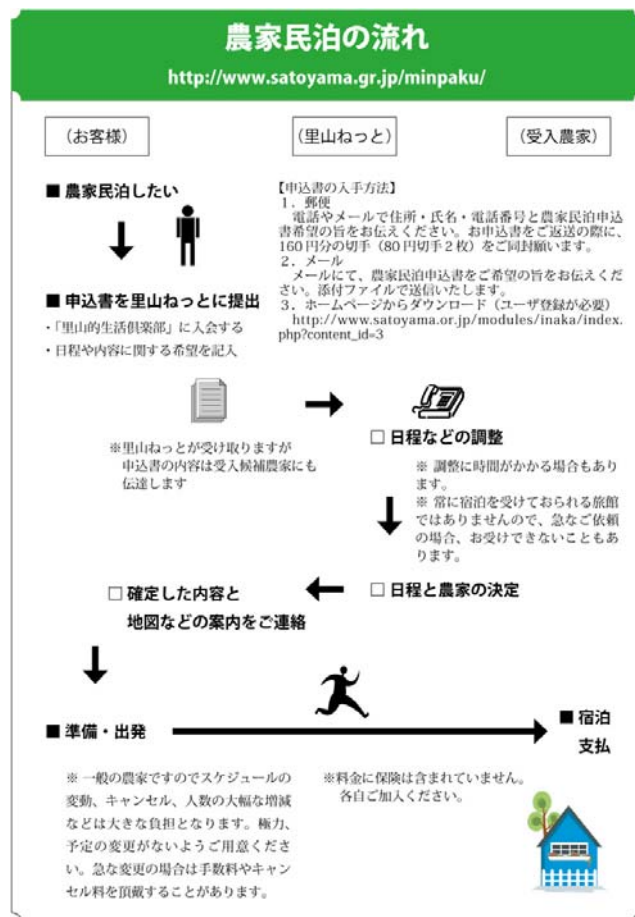
<参考>素のまんま HP : <http://shibaharatoru.at.infoseek.co.jp/>

NPO法人『里山ねっと・あやべ』

「里山ねっと・あやべ」は、綾部市にある農家民宿の総合窓口として農家民宿の方々を応援する活動を行っています。（応援ということで、仲介手数料などは一切取っていません。）この「里山ねっと・あやべ」を簡単に紹介すると、地域資源として存在している里山力・ソフト力・人財力の3つの力を活用し、都市農村交流や第二の人生の場としての綾部定住化を促進する活動などを展開しています。今年で設立10周年を迎え、行政や綾部市民にもその活動を認められ、綾部市の地域活性化に多大に貢献してきた団体です。理事長は京都大学大学院の新山陽子教授で、メンバーには「半農半X」（誰もが有する可能性や長所を「X（エックス）」とし、持続可能な農ある暮らしをベースに、天与の才を活かした仕事（天職）を行うというライフスタイル。）というコンセプトの提唱者である塩見直紀氏も所属しています。

この「里山ねっと・あやべ」が地域に貢献している活動内容は、書ききれない位数多くあり、詳細について知りたい方はHPをご覧ください。ちなみに、農家民宿の手続きとしては左図のとおりです。

<参考>里山ねっと・あやべ HP：<http://www.satoyama.gr.jp/>



水源の里を推奨する綾部市

「素のまんま」がある綾部市は、農村地域の活性化に非常に前向きな行政組織であり、前綾部市長の四方八洲男氏は「水源の里」の発起人（全国水源の里連絡協議会の会長）として有名な方です。この民宿の更に山奥深くに入ったところに高齢者のみ5世帯という限界集落がありました。ここは、綾部市が水源の里として位置付けており、新たな人の定住を公的に支援する取り組みを進め、その結果、現在都市部より2世帯の入村がありました。この他、上で紹介した「里山ねっと・あやべ」では綾部市の空家情報を一元管理し、都市と農村の橋渡しを担っています。

<参考>綾部市 HP：<http://suigen.ayabe-teijyu.org/index.htm>



あとがき

以上書いてきたように、農家民宿が継続して経営されている背景には、その土地の持つ魅力もさることながら、さまざまな関係者による絶え間ない努力が存在しています。皆様方も農家民宿を体験し、魅力ある農村地域を維持していくことに想いを馳せてみてはいかがでしょうか。